

坂崎小学校は、西三河地方教育事務協議会から平成20年度より3年間の研究委  
嘱を受けました。そして、**平成22年10月27日(水)**に研究発表会を開催します。  
皆様からのご指導、ご鞭撻をよろしく申し上げます。

## 研究の概要

平成22年度 研究テーマ (平成22年5月現在)

# 豊かな心を持ち、目を輝かせて学び、 たくましく生きる子の育成 — かかわり合いを通して、学ぶ喜びを味わう授業づくり —

## 研究テーマ 設定の理由

### (1) 坂崎の子として育てる

今、わたしたちの目の前にいる坂崎っ子は、飾り気はないが、感受性豊かな子が多いことに気がついた。わたしたちは、この子ども達に対して、どこに軸足をおいて教育をすべきか悩んだ。今日的な課題の一つであるPISA型の学力の向上を目指して研究することは必要なことである。そのことにも当然意識をしながら、より感性を豊かにし、心と身体が健康で、バランスのとれた坂崎っ子の育成を目指したいと全職員で確認しあった。そのため教科や領域は限定することなく、全教科全領域での研究を進めることにし、研究主題を「豊かな心を持ち、目を輝かせて、たくましく生きる子の育成」とした。

### (2) 研究の志気(こころざし)

研究を進めるにあたっての大前提は、子ども達が心身ともに健康で学校にくることである。どれだけ素晴らしい教育をしようとも、子ども達が学校に来なければ意味がないのである。子ども達が、元気に登校できる裏側には、温かい家庭があり、協力的な地域があることを忘れてはいけない。だからこそ、わたしたちは、家庭と地域と学校の三者の連携こそ坂崎の教育には不可欠なものであるというを認識の上に立ち、教育の土台となるしっかりと生活づくりに重きを置くことにした。

本主題に迫るために、「ひと・もの・こと」との「かかわり合い」に着目をした。「かかわり合い」を意図的に設定することで、豊かな学びが可能になり、子ども達が学ぶ喜びを味わうような授業ができれば、主題に迫ることができると考え、副主題を「— かかわり合いを通して、学ぶ喜びを味わう授業づくり —」と設定し、実践をはじめた。

## 2 めざす子どもの姿

「豊かな心をもつ子」とは、

**ひと・もの・ことに興味関心を持ち、感動をすなおに表現できる子**

「目を輝かす子」とは、

**自ら学び、仲間と追究する楽しさと厳しさを味わう子**

「たくましく生きる子」とは、

**心身を鍛え、健康で自分に合った生活づくりのできる子**

## 「ひと・もの・こととのかかわりを通して」

学年	豊かな心をもつ子	目を輝かす子	たくましく生きる子
1・2年	友達の気持ちを考え、行動できる子	体験活動から、学ぶ楽しさを味わう子	健康に興味をもった、心身ともに元気な子
3・4年	クラスの仲間を大切にし、協力して活動できる子	課題を見つけ、問題の解決に向かう子	健康に気をつけ、心身を鍛えようとする子
5・6年	他学年や地域とかかわりを深め、働きかける活動ができる子	積極的に、自ら問題の解決に向かう子	自ら心身を鍛え、自分にあった生活づくりのできる子

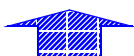
個を育て  
集団を作る

「かかわり合う集団」づくりを核として  
「問題解決型学習」をベースとした授業実践

# 豊かな心を持ち、目を輝かせて学び、 たくましく生きる子の育成

— かかわり合いを通して、学ぶ喜びを味わう授業づくり —

「A 豊かな心を育てる」「B 目を輝かせて学ぶ」「C たくましく生きる」これらを育成するために「かかわり合いを核とした教育課程」を創造し、実践を通してめざす子どもの姿に迫っていく。



## A 心を育てる 「ひととのかかわり合い」で

- ア 仲間や地域の人とのかかわり合いを大切にした体験活動・実践活動
- イ 互いの活動を学び合い、自分に生かす共有化活動
- ウ 保護者や地域の人とともに考え、地域に働きかける還元・発信活動

## B 目を輝かす 「問題解決型学習」で

- ア 子どもの気づきや問題意識を大切にした単元づくりと授業づくり
- イ 教科・領域との関連を図り、手だてを明確にした単元構想づくり
- ウ かかわり合う土台づくり

「かかわり合い」を核とした教育課程の創造と実践

## C たくましく生きる 「しっかりとした生活」で

- ア 5分間のかけ足完走や基礎体力トレーニングなどによる体力づくり
- イ 「早ね早起き朝ごはん」や全校欠席0を中心にした生活習慣の確立
- ウ 全員発言やハンドサインなどを取り入れた学習ルールの確立

#### 4 研究の仮説と構想図

### 研究仮説

しっかりとした生活を基に、学習過程において体験活動を重視し、ひと・もの・こととのかかわり合いの場を位置づけ、学びを深めていく授業づくりをしていけば、子どもたちに学ぶ喜びを味わわせることができるであろう。

### めざす子ども像

このイメージ図は、坂崎っ子が樹木のようにたくましく天にむかって伸びていくものである

# 坂崎 子

〈手だて1〉

#### 授業づくりの工夫

- ・子どもが主体的に追究できる単元構想
- ・体験活動の重視
- ・学んだことを活用する場面の設定

〈手だて2〉

#### かかわり合わせるわざ

- ・主体的な追究をさせる発問と学習課題の設定
- ・教師の出立ち止まり
- ・子どもたちを育てる話し合いの話し合いの話し合い
- (うなずきあい、相互指名、意図的指名など)
- ・全員発言と焦点化した話し合い
- ・学習形態の工夫  
(コの字形・円形・ペア学習・グループ学習など)

#### 仮説の検証方法

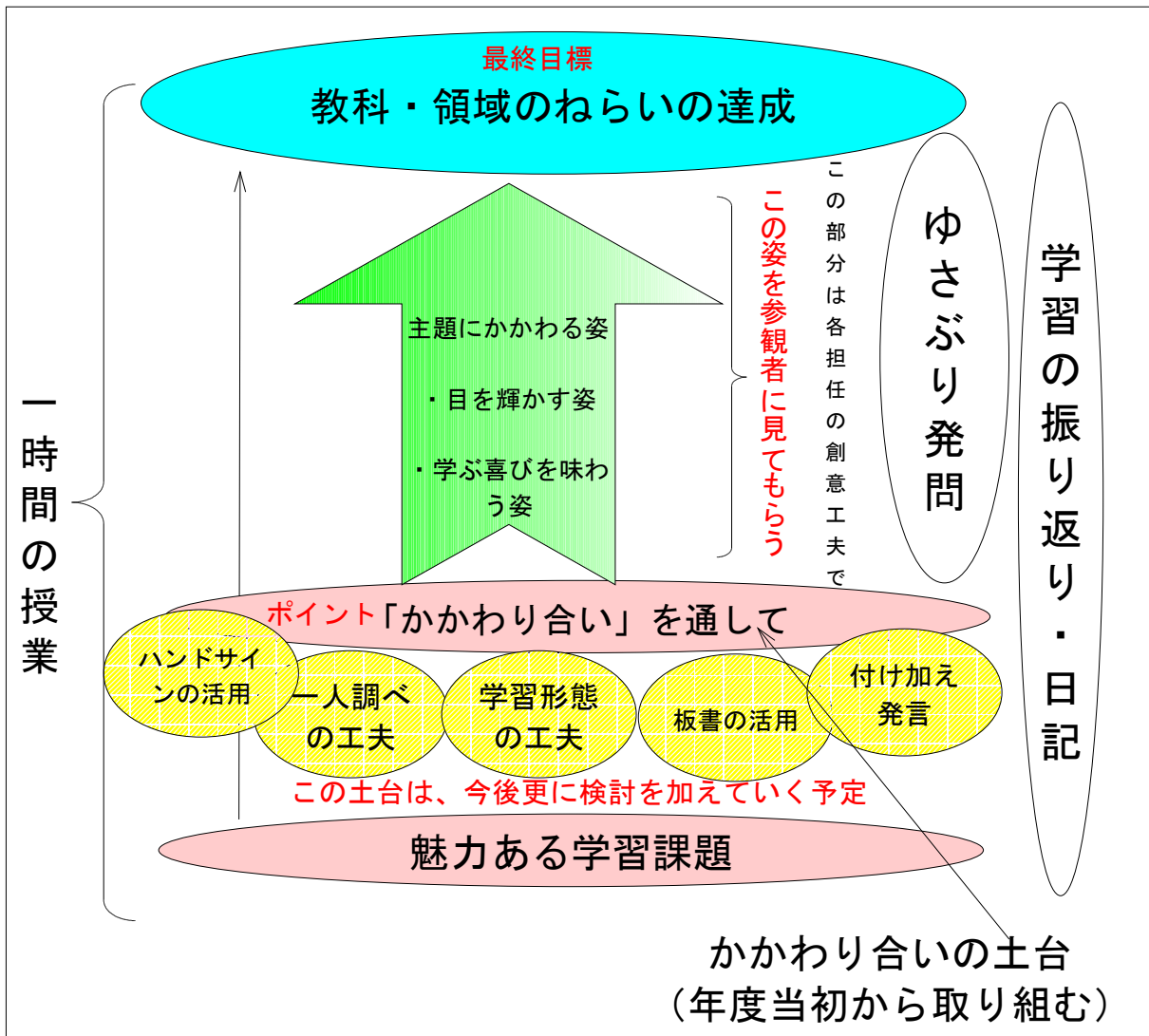
- ・授業記録
- ・授業日記
- ・アンケート
- ・生活ぶりなどで

※坂崎小の子のよさの再確認

### しっかりとした生活づくり

学習の基礎・基本	生活の基礎・基本	心の基礎・基本		
		学 校	家 庭	地 域
○学習規律の確立 ・授業中の発言ボリューム度 ・発言ハンドサイン(かかわり合いの技) ・聞く姿勢の徹底 ・ノートの使い方 ○基礎学力の定着 ・目標点确实達成 ・理解が遅い子へ細かい指導 ・家庭学習の充実	○基本的な生活習慣 ・早寝・早起き・朝ごはん運動の推進 ○体力づくり ・毎日5分間かけあし ・欠席0をめざす ・給食モリモリ指導	○学級経営の充実 ○感性の教育 ・俳句教室 ・抹茶体験 ・お礼の手紙 ○異学年交流 ・縦割りそうじ ・縦割りゲーム ・通学班による登下校 ・学年を越えた学習の場の設定 ・遊育	○学校・学年通信 ○親子体験活動 ・家庭教育学級活動 ・PTA活動 ・読み聞かせ	○地域体験活動 ・里山づくり参加 ・保育園との交流 ・敬老会参加 ・特養老人ホームとの交流 ・病院との交流 ・農園での農業体験 ・老人クラブとの交流 ・米・野菜等栽培体験 ・地域行事参加

## 「1時間の授業のイメージ図」



※授業をデザインする



「かかわり合い」の土台

材料 = 課題  
 道具 = 発問、指示  
 設計図 = 板書  
 地盤 = 「かかわり合い」の土台



※地盤がしっかりして、デザインがあり、材料と道具があつてこそ、目標とする家を建てることことができる。授業も同じと考える。